

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	雑穀による6次産業化推進事業
事業主体 (連絡先)	鹿島ふれあい農園 代表 大日方康孝 上水内郡小川村高府 13938-1 (090-4820-2920)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	3,155,436 円 (うち支援金: 1,677,000 円)

事業内容

「鹿島農園」の農地作付けに加え、村内の農家6名の協力を得て、えごま、黍、粟、高きびの収穫を行った。

雑穀を素材にした「えごま油」、「黍粉、粟粉、高きび粉」を商品化し販売を開始した。

販売先は、「道の駅おがわ」をはじめ、村のふるさと納税の返礼品として利用しているほか「道の駅 安曇野松川」でも販売を開始した。



【搾油機／製粉機の設置】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・耕作放棄地 4,000 m²の再生を行うことができた。
- ・「えごま油」「雑穀粉」(黍粉、粟粉、高きび粉)の商品化
- ・村の特産品「雑穀」のPRとして、ふるさと納税の返礼品としての有効利用

【目標・ねらい】

- ① 荒廃農地の有効利用 4,000 m²
- ② 雑穀による農産物の6次産業化
- ③ 村の特産品「雑穀」のPR
- ④ 雑穀の生産規模の拡大

※自己評価【B】

【理由】

「えごま油」については、一定の時期までに完売できる見通し。
「雑穀粉」の利用・販売はこれからであるが、雑穀粉を利用した食品の試作段階で一定の評価を得ている。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「えごま油」「雑穀粉」の販売実績に応じて、雑穀の耕作面積、協力者を増やしていく。
雑穀粉を利用した、食品の開発に力を入れ、「雑穀の村」としての確立を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある